

NPO法人世界女性会議ネットワーク静岡

代表：守屋 秀子

シンポジウム 女性が活躍するためのアイデアをみんなで考えよう 「女性の活躍は地域の元気になる！」

実施日時：平成 24 年 12 月 1 日（土）13:30～16:30

実施場所：掛川市役所 4階 会議室

参加者：40人

連携・協働団体：掛川市・掛川市教育委員会・とはなにか学士会（おもてなしの会）

1. 事業目的

これからの男女共同参画をさらに推進していくために、政治、行政、企業管理、研究、地域などの各分野の指導的地位への女性の進出を促進するための啓発・研修と実践例の提起と情報交流。地域や職場などで活躍する女性・男女共同参画に関心を持つ市民一般を対象に、女性の能力やその社会的活用への理解や意欲を促し、女性自身が主体的に考え、積極的にアクションを起こしていくには、どのようにしたらよいかなどの意識づけ。

2. 事業内容

シンポジウム（講演会&パネルディスカッション）の開催

① 基調講演「縮減時代の女性の可能性」

講師 榛村純一さん（社）静岡県茶業会議所会頭・大日本報徳社社長

② お茶で一服 おもてなしの会代表 杉山弥生さん

③ パネルディスカッション テーマ「女性が活躍するためのアイデア～私の提案」

<パネリスト> 赤堀佐代子さん（前静岡県議会議員、社会福祉法人草笛の会理事長）

竹内祐子さん（湖西市議会議員）

山崎友子さん（学校法人未来理事(掛川子ども園)）

<コーディネーター>東堂 陽一さん（静岡県議・NPO 法人世界女性会議

ネットワーク静岡会員）

実施日時：平成 24 年 12 月 1 日（土） 13：30～16：30

実施会場：掛川市役所 4階 会議室

3. 事業の実績

社会全体はもちろん、とりわけ地域や職場で女性が元気に活躍できるようにするための環境づくりを進めるにはどうしたらよいか。またそして女性たち自身のチャレンジへの勇気などをテーマに、多彩な顔ぶれのスピーカーを招き、講演とシンポを実施した。・参加人数 40人。

4. 事業の効果

いろいろな視点からの課題提起、具体的な提案による話し合いが進んだ。とはなにか学士会（おもてなしの会）の協力による交流も楽しみ、参加者から充実した内容であったとの評価を得た、男女共同参画を推進するために、女性自身が主体的に考え、積極的にアクションを起こしていこうという意欲を高めることができた。

パート I

基調講演「縮減時代の女性の可能性」

講師 榛村純一さん

(社)静岡県茶業会議所会頭・
大日本報徳社社長

講師の榛村純一さんは、明治以降の社会情勢などと結び付けながら、女性の位置づけや役割について論じ、人口減少、高齢化が進む中、原発や環境問題が限界を迎え、「これからの縮減時代は、女性がカギを握る」と指摘しました。また、普通・平凡・安心・自然が幸せ。女性が幸せを追求することが男性を幸せにして、地域を豊かにするとも話されました。



講師の榛村純一さん

【講演要旨】

今、私たちは歴史的にどこにいるのでしょうか。1868年の明治維新以降の近代日本を振り返り、東京集中、関東大震災、軍国主義、原爆投下、敗戦、第二次世界大戦敗北、女性の参政権獲得、教育改革地改革と、大きな時代の転換がありました。

掛川市には大日本報徳社があり、私は子供の頃から報徳の教えで育てられていますが、第二次世界大戦後の日本の教育は、知育・徳育・体育のうち徳育が欠落した感があり、その分野は、福祉・ボランティアという言葉に置き換えたとはいえ、私は頑固に徳育を復権しなければいけないと思っていました。

1960年(昭和35年)所得倍増計画、続く1970年高度経済成長のお祭りです。1973年石油ショック以降、環境問題、東京一極集中が顕在化してきました。私は、1977年(昭和52年)43歳で市長になり、平成17年まで掛川市長を務めました。

1977年には全国300の定住圏計画が構想されました。定住構想とは、地域に、教育・文化・医療・福祉・安全・レクリエーション・雇用の高次都市機能を付与しようという試みでした。昭和40年頃から過疎化が進み、子供の教育のためと称して、全国の村々から人々がまちへ出て行ったことで、つくづく日本は明治以来向都離村の教育をしてきたのだと思ったことから、村づくりは人づくり、人づくりは村づくりと考え、生涯学習大学運動を1970年から起こしました。そのキャッチフレーズは「わが山・わが川・わが大学・わが森・わが村・わが教室・わが家・わが魂」というものです。その地域で一生暮らすことを決意した人たちの理念・運動として生涯学習を据えたのです。1979年全国に先駆けて生涯学習都市宣言をしました。掛川市の生涯学習は「まちづくりとしての生涯学習」です。

向都離村(民族大移動)と女性の高学歴化、都市への集中などで女性の役割が変化し、「男女共同参画」という考え方が出てきました。女性の一生は、娘・妻・母・嫁・姑・お婆さん・職業人と7役があり、さながら、妖怪七変化です。

私の市長就任時には掛川市役所には女性の係長が一人もいなかったのですが、平成7年度は係長8人、補佐クラス3人、そして平成8年度には、初めて女性の課長を任命しました。

1975年(昭和50年)の国際婦人年に始まる国連婦人の十年から、女子差別撤廃条約を1985年(昭和60年)に批准したことにより、就労では男女雇用機会均等法が制定され、男女共同参画社

会の実現をめざして動き出しました。女だから、男だからということだけで自らの生き方を縛ったり、あきらめてほしくない。男女を問わず、人がそれぞれの個性を精いっぱい生かした人生を送るよう、皆が考える社会になったら素晴らしい。総理府がまとめた国内行動計画をモデルにして、各都道府県の女性行動計画が策定されました。それをモデルにして市が作っていくことが多い。そうすると、すべて行政分野がもれなく記載されているとしても、結局どの県も市も同じような、金太郎飴のような内容になってしまう。行動計画とは、アクション・プログラムの訳で、男女共同参画社会の実現をめざすため現状を分析し、課題を明確にし、その解決のため何をなすべきかを示したものです。

掛川市女性行動計画「キラリにっこりプラン～責任とよろこびを分かち合う成熟社会を目指して～」は平成7年度策定し、冊子にまとめ、市民に配布し、理解を求め、行政とともに男女共同参画社会をめざしていく次の段階に入ることになりました。

高学歴女性ほど東京が好きなのは、①公待遇、高地位、②選択の幅と機会の多さ（買い物、遊び）、③プライバシーが守られる、④前衛（変革、芸術）が活躍できる、⑤男女の交流とロマン、盛り場の存在という5つの理由があるといわれますが、その環境を地方にも普及することを目指し、地方での待遇改善等の必要性を指摘しました。生涯学習都市宣言の必要性として、次のようなものがありました。

- (1) 教育改革としての生涯学習 …高卒・大卒の学歴決算を排し、生涯かけ魅力有徳の人材育成。
- (2) 趣味道楽としての生涯学習 …自由時間を活かし自己実現、ゆるり豊かなスローライフで。
- (3) 勉強を強制される生涯学習 …高度技術革新・情報化・国際化・地域温暖化に見識。
- (4) 健康長寿のための生涯学習 …だてに歳くわず、社会コストかけずに死ぬための節制を。
- (5) まちづくりと同じ生涯学習 …わがまちをりっぱにし、わが人生も立派にする人生舞台創造。

茶業の振興は静岡県と掛川市にとっても重要な課題です。「薬食茶一如、医薬同源」という言葉がありますが、「医食同源」と言うべきで、長い歴史の中で茶は単なる嗜好品ではなく、食生活、文化、精神徳育、健康、エコなどの面でそれぞれ関係があり、深い意味を持っています。

これからは高度経済成長で、どんどん外国産を輸入し、大量消費、大量廃棄をする時代ではない。国産を尊び大事に育て、日本固有の文化道徳を育てていかなければならない。その意味からも茶業の振興は重要であり、その振興策として次の五つのことを提唱したい。

- (1) 産・和食・和消…地産・地消をすすめ、健康的な和食茶の推進。
- (2) 文化・美学・癒し …茶道文化、精神的安定に茶の果たす役割を見直す。
- (3) 能・効能・長寿 …茶は機能食品で、ガン抑制、長寿に果たす役割を見直す。
- (4) 食育・撫育・徳育 …和食や茶を味わう
作法は幼児の時から徳育につながる。
- (5) エコ・倫理・愛郷 …国産茶こそ環境保全に役立ち、愛郷精神を育む倫理的商品。

和食と茶飲は切り離せないもので、共に食文化と徳育の面で、また、健康な社会環境と愛郷心の醸成面でこれからの新しい社会創造に において重要な役割を持っています。

熱心に講演を聴く参加者のみなさん



パートⅡ パネルディスカッション

「女性が活躍するためのアイデア

～私の提案」

＜コーディネーター＞東堂陽一さん

（静岡県議・NPO 法人世界女性会議

ネットワーク静岡会員）

＜パネリスト＞

赤堀佐代子さん

（前静岡県議、社会福祉法人草笛の会理事長）

竹内祐子さん（湖西市議会議員）

山崎友子さん

（学校法人未来理事〈掛川子ども園〉）



パネルディスカッション登壇者の皆さん

前静岡県議会議員・社会福祉法人草笛の会理事長の赤堀佐代子さん、湖西市議会議員の竹内祐子さん、学校法人未来理事・女性農芸家の山崎友子さんをパネラーとして迎え、コーディネーターを東堂陽一さん（静岡県議会議員、NPO 法人世界女性会議ネットワーク静岡）が務め、「女性が活躍するためのアイデア～私の提案」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

まず最初に、各パネラーから自由に発言していただきました。

赤堀さんは、初めて県議選に立候補した時の心の葛藤や、自分の考えを実現するためには勇気を持って踏み出すことが大切だと決心したこと、そしてその結果、周囲の人から始まり、次第に応援団の輪が出来ていったことなどを話しました。竹内さんは現職市議ならではの視点から発言し、事例として自身が進めた子育てサークルについて言及し、女性の活躍が地域を元気にすると発言。山崎さんは、農家に嫁ぎ、高齢の義父母の介護をしながら農家の経営に苦勞してきたこと、その中でお茶の直販や食品加工を自分の事業として開拓していき、それが生き甲斐となり心の支えになっていることなどを、明るく前向きに話しました。

いずれの話も経験に基づき、結果を出した方の発言であり、説得力のある有用な意見でした。これを受け、更に掘り下げた議論として、「女性議員が増えることを阻害している原因は何か。今求められるポジティブアクションは何か。事業を成功させる上での工夫などについて尋ねました。

この後、男女共同参画全般についても、男女共同参画の現状をどう思うか。男女共同参画の今の課題は何か。男女共同参画が進展しないのであればその理由は何か。男女共同参画の進展に果たす教育の効果についてなどです。会場からも幾つかの質問や意見が出され、意見交換をしました。

「勇気を持って踏み出すことの大切さ」、「女性ならではの感性や発想を活かしての起業」、「何かをしたいと本気で思い行動すること」、「委員会、審議会委員、市議会議員など市民の代表となるところへ女性を送り、女性の声を反映させていく。このためには行政の取り組みがポイントとなる」、「ポジティブアクションの推進」などなど、参加者からたくさんの意見、提案をいただき、無事会を終えることができました。

シンポジウムを開催して

NPO 法人世界女性会議ネットワーク静岡 米倉まさ子

女性の活躍による経済社会の活性化という考え方は、政府の第3次男女共同参画基本計画に盛り込まれています。

日本では政治及び経済活動への女性の参画が進んでおらず、そのため人口の半分を占める女性たちの能力や感性、労働力が広く社会的に活用されず、また女性たちの抱えている問題の提起、社会的発言力も不十分です。

これからの男女共同参画をさらに推進していくためには、政治、行政、研究、地域などの各分野の指導的地位へ女性が進出していくことが、大きな課題となっています。

また、人口減少、高齢化が進む中で、東日本大震災からの復旧、復興、日本経済の再生等、様々な課題の解決を迫られるわが国において、再生が真っ先に求められるのは、政治と経済だと私は考えます。

そこで、今回は「女性の活躍は地域の元気になる！」シンポジウムを企画いたしました。

【基調講演】「縮減時代の女性の可能性」講師榛村純一さん（静岡県茶業会議所会頭）から、明治維新以降の近代日本史を振り返り、大都市への人口集中などで女性の役割が変化してきた。これからの縮減時代は、女性の力こそが地域を豊かにするカギと指摘しました。

お茶で一服では、とはなにか学士会（おもてなしの会）代表杉山弥生さんのグループにお願いして、掛川の深蒸し茶とレモンガラスのお茶で、心のこもったおもてなしに楽しく交流できました。まさにお茶で一服、感謝。

パネルディスカッション「女性が活躍するためのアイデアー私の提案」

前県議会議員、草笛の会の理事長の赤堀佐夜子さん、湖西市議の竹内祐子さん、女性農家の山崎友子さんをパネラーとして迎え、コーディネーターを東堂陽一さん（静岡県議会議員、NPO 法人世界女性ネットワーク静岡）にお願いしました。

「勇気を持って踏み出すことの大切さ」「女性ならではの感性や発想を活かしての起業」いずれの方々のお話も経験に基づくもので説得のあるご意見でした。

参加者全員でのフリートーキングでは、活発な意見が出て盛り上がりました。毎年、男女共同参画というのは、まちづくりの視点の一つであるという考え方で、政策提言しておりますが、継続は力なりを実感しております。

男女共同参画の視点で共生の社会を築き上げていくために、自分たちの地域は自分たちで引き受けるという理念を持って、政策提言して行きたいと思っております。ありがとうございました。

最後になりましたが、大勢の方のご参加に感謝し、このミニシンポジウム開催にあたり、ご協力を頂いた方々に厚くお礼申し上げます。



挨拶をする米倉さん

純一さん(中心)が「縮減

茶業会議所会頭の榛村
続いて、元市長で県
「女性の力を社会に」
掛川で男女共同参画シンポ



「縮減時代の女性の力の可能性」と題して講演する榛村さん＝掛川市で

男女共同参画社会づく
りのためのミニシン
ポジウム「女性の活躍
は地域の元気になる」
が一日、掛川市役
所であり、市民ら三千
五人ほどが聴講した。
県男女共同参画セン
ター交流会議の本年度
あざれあ地域協働事業
として、NPO法人世
界女性会議ネットワーク
静岡が企画した。
冒頭、同ネットワー
ク掛川グループの米倉
まさ子代表が「社会の
再生には、女性が政
治、経済で活躍するこ
とが必要」とあいさ
つ。

時代の女性の力の可能
性」と題して講演し
た。榛村さんは明治維
新以降の近代日本史を
振り返り、大都市への
人口集中などで女性の
役割が変化してきたと
説明。原発や環境問題
が限界を迎え、「これ
からの縮減時代は女性
が鍵を握る」と指摘
し、女性が幸せを追求
することが男性を幸せ
にして地域を豊かにす
る一と説いた。

その後、元県議や湖
西市議、学校法人理事
らを講師に迎えた公開
討論会があった。
(佐野太郎)

(第三種郵便物認可)

掛川

女性の活躍で 地域に元気を NPOがシンポ

女性を起
点に戦後史を
振り返り、女性
の一生は娘、妻
、母、職業人
など7役がある
と説明。高学歴
者が都市部へ
流出する実情
も指摘し、待遇
改善など必要
性を述べた。

元県議の赤堀
佐代子さん、湖
西市議の竹内
祐子さん、学
校法人未来理
事の山崎友子
さんをパネリス
トに迎えた。日
スカッションも
行った。県議の
東堂陽一さん
がコーディネー
ターを務めた。

掛川市役所で開
かれた。元市長
の榛村純一氏
(78)が基調講
演を行った。市
民約25人は18
68年の明治維
新は地域の元
気になる

NPO法人世界女性
会議ネットワーク静岡
(掛川グループ代表・
米倉まさ子)のミニシ
ンポジウム

女性を起
点に戦後史を
振り返り、女性
の一生は娘、妻
、母、職業人
など7役がある
と説明。高学歴
者が都市部へ
流出する実情
も指摘し、待遇
改善など必要
性を述べた。

元県議の赤堀
佐代子さん、湖
西市議の竹内
祐子さん、学
校法人未来理
事の山崎友子
さんをパネリス
トに迎えた。日
スカッションも
行った。県議の
東堂陽一さん
がコーディネー
ターを務めた。